

横浜市立万騎が原中学校 学校だより



桐の花

令和4年

12月19日

校長 中村 雅一

横浜市旭区万騎が原 31 TEL 045-391-5514 FAX 045-391-5537

URL <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/jhs/makigahara/index.cfm>

「苦しいとき、逆境にどう立ち向かうか」

校長 中村 雅一

カタール・ワールドカップが盛り上がっています。日本代表は5日、決勝トーナメント1回戦でクロアチア代表と対戦し、1-1で迎えたPK戦の末、敗れました。ベスト16の壁を破ることはできませんでしたが、クロアチア戦はもちろんのこと、誰も想像しなかった予選リーグでの強豪ドイツやスペインを打ち破ったその戦いぶり、そして、試合後の選手・監督の「ことば」や「振る舞い」に、私たち日本の国民は感銘を受け、たくさんの感動や勇気、希望をもらったことでしょう。だから、多くの人から自然と「ありがとう」という言葉が出るのでしょう。

さて、万騎中生の皆さんは、どんなシーンやことばが記憶に残っていますか。

私が一番印象に残っているのは、予選のグループ・リーグ、スペイン戦での決勝ゴールを演出したシーンです。堂安選手のグラウンダーのクロスに対して、めいっぱい走って左足を伸ばしゴール前に折り返した三苦選手のアシスト。世界中から「奇跡の1ミリ」として大きな注目を集め、VARのきわどいジャッジ（1,88ミリ残っていた）の末、そのボールに合わせた田中選手のゴールが認められました。ゴールラインを割るか割らないか、1ミリをあきらめなかった三苦選手の気迫のアシストパスと絶賛されました。その結果は、2-1で勝利を呼び込むプレーともなり、決勝トーナメント進出が決まりました。

この場面で特筆すべきは、3人の選手です。まずは、堂安選手のクロスボールにスライディングをしてゴールを狙った前田選手。果敢に攻めましたが、あと一歩届かず、ボールはゴールラインに流れていきました。そこに同じくクロスが来ると信じて全力で外から走り込んできた三苦選手。彼は自分とゴールの間に滑り込んできた前田選手に当たらないよう、とっさの判断なのか、ボールの上側を地面にたたきつけるようにキックして浮かせるパスを出していて、これまた驚きです。さらに、その三苦選手の折り返しのボールが来ると信じてゴール前に走り込んでいた田中選手。この3人の諦めない気迫のプレーから学ぶべきことは大きいと思います。映像を何度も繰り返し見てわかったのですが、日本選手とは反対に、2人のスペイン選手が三苦選手や田中選手より遅れているのがはっきり見て取れました。スペイン選手は、頭か、気持ちのどこかで、「ボールはゴールラインを割った」、「ゴール前への折り返しのパスは来ないだろう」と思ったのではないのでしょうか。

限られた時間やルール内で行われるスポーツや競技では、審判の笛が鳴るまで、タイムアウトのブザーが鳴るまで、全力を尽くすことが大事です。そして、それを体に覚えさせ習慣化していくこと、つまり、ルーティンワークが必要なのだと思います。スポーツにVARが取り入れられるようになってきた状況では、なおさらです。たとえば、野球で自分の打席がピッチャーゴロの凡打だったとしても全力で1塁に走る。バスケットボールで自分がドリブルで運ぶボールを相手にスチールされてしまい、ゴールに向かう相手にたとえ追いつくことができなくても後ろから全力で走って追いかける。バレーボールで自分がどんなに追いかけても取れない遠く離れたボールでもレシーブに飛び込む。これらは、最後の最後まであきらめないことを習慣化していくために大切なことなのです。サッカーで自分が守備側の選手で相手のFWに抜かれて、ドリブルでゴールに向かっていく相手に対して、自分がそこで追うのをあきらめてしまったら、あとはシュートを決

められるだけです。しかし、抜かれた後も、全力で相手に食らいついていったら、、、、シュートを打とうとしている相手に気配を感じさせるだけでもプレッシャーをかけることができ、その結果、シュートが外れることもあるかもしれません。追いかけないことは、その外れたボールを取る機会を放棄するに等しいプレーです。野球もバスケットもしかり、バレーにいたっては、取れるか取れないかのボールに飛び込むことは「フライングレシーブ」という技術にもなっているくらいです。あらためて、「奇跡の1ミリ」とは、日々の練習における良い習慣によって生まれたもので、これも彼ら選手にとっては「必然」なのでしょう。

先日、スラムダンクの新作映画を観ました。36-58の24点差で負けている湘北の安西監督の言葉（「私だけかね・・・？まだ勝てると思っているのは・・・」）「諦めたら、そこで試合終了ですよ」から、桜木花道は、コート外に出そうになったボールを追いかけて、観客席に飛び込みながらボールをコート内の味方に投げ入れる闘志を見せます。リバウンドを取ることが自分の役目と信じ切ってボールに集中します。そこから湘北の追撃が始まります。ゴールシーンはいつも華やかですが、ボールを追いかける、リバウンドでボールに何度も飛びつく、ディフェンスで粘るなど、地味ではあっても最後まで粘り強く、泥臭く戦うこと、ハードワークを見せることは、成功へのチャンスを引き寄せる道筋となります。また、「苦しい時こそ頑張る」ことは、まず自分自身に、そして仲間に、さらに観ている人にも、「勇気」や「元気」を与えることになり、それは勝敗の如何にかかわらず、自分自身の成長や自信に繋がっていくのだと思います。

クロアチア戦敗退直後のインタビューで森保監督が語った言葉です。「これから先に、日本サッカーが**最高の景色を願い続ければ**、必ず壁は乗り越えられます。新しい景色は、ドイツに勝ち、スペインに勝ち、W杯チャンピオンに勝てたことを自信をもって、さらに『追いつき』ではなく、『**追いこせ**』を考えれば、必ず未来は変わると思います」。森保監督の言う「最高の景色を願う」とは「W杯優勝を目指す」ことだと思いました。ベスト8の目標やベスト8への準備では、ベスト8の達成は難しく、頂点を目指して戦うこと、その準備をしていくことでしか「ベスト16の壁は破れない」ということなんだと思います。ライバルチームは皆、優勝を目指してるわけで、優勝経験をしているチームがいくつもあるわけですから、当然の事でしょう。

日本は勇敢に戦いましたが、悔しくもPK戦で1-3で負け、ベスト16の壁は破れませんでした。再び、映画「スラムダンク」のシーンです（ネタバレあります）。湘北に逆転負けをした山王の監督は選手たちに「負けたことがあるというのが、いつか、**大きな財産になる**」と声をかけます。山王のエース、沢北選手は泣き崩れて立ち上がれません。実は、この全国大会の数日前、沢北選手はアメリカ行きを目前にこの全国大会に向け、神社にランニングがてらお参りに行きました。そこで、神様に祈ったのは「俺に必要な経験をください」という願いでした。まさに、この全国大会で彼が経験したのは、自分が今まで経験したことのない「逆転負け」という屈辱と悔しさの経験でした。「まさかこんな形で自分の願かけが叶ってしまうとは」とむせび泣くのですが、その後、沢北選手は夢だったNBAの舞台に立ってプレーをするというストーリーです。

日本のPK戦での敗退は経験の差なのかもしれませんが、日本は立候補した選手がPKのキッカーを務めたといえます。最初の南野選手が立候補するまで5秒の沈黙があったといえます。名乗り出たことで責任感や重圧感が増したことは事実でしょうが、その重圧の中で狙ったコースに射抜く技術や精神力を身に付けた先に成功があり、その成功体験が自信となっていくのでしょうか。そのためにはひたすら練習しかありませんが、チャレンジを名乗り出たことは目の結果が失敗でも将来の大きな成功につながる失敗だと思い、リスクを背負いたいです。逆境に立たされたときにどう振る舞うか、自分や周囲が苦しい状況に置かれたときにどう振る舞うか、歴史を変えようと果敢にチャレンジした若い彼らから勇気と感動をもらいました。「ありがとう」。

『PKを外すことができるのは、PKを蹴る勇気を持つ者だけだ』（「イタリアの至宝」と呼ばれたロベルト・バッジョの言葉）
(令和4年 12月 9日)

秋からの万騎中学生の活躍です。文武両道にがんばっております。

第41回全国中学生人権作文コンテスト横浜市大会

優秀賞 1年1名

第70回横浜市立中学校席書大会

毛筆の部優秀賞 3年1名

令和4年度「ヨコハマ3R夢！」ポスターコンクール

ヨコハマ3R夢大賞 2年1名

3R夢アイデア賞 3年1名

3R夢あざやか賞 2年1名

佳作 1年1名 3年1名

第19回全国都道府県対抗全日本中学生女子ソフトボール大会出場

神奈川県代表選手 2年2名

入賞した皆さん、おめでとうございます！積み重ねたであろう努力の日に拍手を送ります。しかし、万騎が原中学校には入賞などというかたちにならなくても活躍したり、努力を重ねたりした人がたくさんいます。その人たちのがんばりにも拍手を送りたいと思います。

毎日、授業をがんばったり、友だちと仲良く過ごしたり、行事に燃えたり、部活をがんばったりしている人がいます。家庭のお手伝いをがんばっている人、習い事に励んでいる人、自分の生活をより良くしようとしている人はそれだけで十分素晴らしい“毎日”を送っています。

様々な“毎日”を積み重ねた一年がもうすぐ終わろうとしています。大晦日には2022年を振り返り、新年からまた新しい“毎日”を自分のために積み上げていってください。

皆様がよい新年を迎えられることを心よりお祈り申し上げます。

1月の予定をお知らせします

※予定ですので、感染の状況等により大幅に変更になる場合があります。

日	曜	学校行事など	昼食	日	曜	学校行事など	昼食
1	日			17	火	防災教室	○
2	月			18	水		○
3	火			19	木	5・6校時：1年職業講話	○
4	水			20	金		○
5	木			21	土		
6	金			22	日		
7	土			23	月		○
8	日			24	火		○
9	月	成人の日		25	水	公立共通選拔出願（郵送募集期間 ～27日）	○
10	火	朝会・生徒会本部役員認証式	○	26	木	午後 私学一般出願 郵送	○
11	水	専門委員会	○	27	金		○
12	木	評議会	○	28	土		
13	金	生徒会集会	○	29	日		
14	土			30	月	公立共通選拔出願（窓口募集期間 ～2月1日）	○
15	日			31	火	百人一首大会（3・4校時：1年、5・6校時：2年）	○
16	月		○				

○○○●○○○●○○○○●○○○○●○○○○●○○○○●○○○○●○○○○●○○○○●○○○

1月の学校カウンセラー（小川みなみ）による相談

1月11日（水）・18日（水）・25日（水）です。

相談予約等は、本校職員または相談室直通電話（391-5891）まで。

○○○●○○○●○○○○●○○○○●○○○○●○○○○●○○○○●○○○○●○○○○●○○○

2月の主な予定

3日（金） 3年後期期末テスト

6日（月）～8日（水） 公立共通選抜志願変更

8日（水） 1年『いのちの授業』

13日（月）～15日（水） 1・2年後期期末テスト

15日（水）～17日（金） 公立共通選抜

学校からのお知らせ

この冬は、12月24日（土）から1月9日（月）までの冬休みとなります。冬休み中も部活動がありますが、新型コロナウイルスの感染状況次第では、活動を停止するなどして対応していきます。その際には、部活ごとに関係保護者様に連絡いたします。新型コロナウイルス感染の連絡は、COCOOに連絡を入れていただけると助かります。学校の電話は、令和4年12月29日（木）～令和5年1月3日（火）は、原則、対応できませんので御了承ください。それでは、皆様お身体には気を付けて、良いお年をお迎えください。

